

日本NGO連携無償資金協力申請書

2. 事業の目的と概要	
(1) 上位目標	上位目標： 対象地域の治安状況が改善し、本事業の「安全なコミュニティづくり」のアプローチがモデルとして確立する。
(2) 事業の必要性（背景）	<p>(ア) 事業実施国における一般的な開発ニーズ</p> <p>ホンジュラス共和国（以下、ホ国）は、中南米の中でも最貧困の一つに数えられ、コーヒー・バナナなど一次産品の依存度が高く、脆弱な経済構造となっている。ホ国政府は、それを改善するために保税加工区における海外製造業の誘致や観光業などの育成を図っているが、その大きな妨げとなっているのが治安問題である。首都テグシガルパをはじめ都市部の治安状況が近年急速に悪化しており、殺人率は82.1件/10万人と世界最悪の数値であることが報告されている（2011年 UNODC 発表）。「マラス」と呼ばれる若年層の犯罪組織などによる犯罪件数の増加が顕著であり、深刻な社会問題となっている。治安状況の悪化は、国家の喫緊の課題であると認識され、ホ国政府は『国家開発計画（2010-2022）』の中で「暴力のない安全な民主主義国家の実現」を4大目標の1つに掲げている。</p> <p>治安の悪化は、人間の安全保障の観点からも、一人ひとりの地域住民にとって脅威であり、日本国の対ホンジュラス国別援助方針の中でも開発課題への対応方針として「経済安定化のための治安改善」が挙げられており、市民安全プログラムが事業展開計画のプログラムの一つとして位置づけられている。例えば JICA は、同国治安省をカウンターパートとし、「地域警察活動支援プロジェクト（技術協力プロジェクト）」を実施し、国家目標の達成を後押ししており、日本の交番システムを導入したブラジル支援の経験を基に、ホ国における地域警察の能力強化を図っている。一方、犯罪の温床ともなっているコミュニティ自身の改善に向けた取り組みが今後の課題の一つとなっている。</p> <p>(イ) 申請事業の必要性</p> <p>本事業が対象とする首都テグシガルパ市南西部に位置する3地区は、特に治安改善のニーズの高い地域であり、上記の技術協力プロジェクトの対象地域となっている。同プロジェクトを通じて訓練を受けた地域警察官は、輪番で各地区の詰所（日本の交番にあたるもの）に24時間待機して、各家庭の個別訪問、地域のパトロール、コミュニティへの啓発、情報収集等の活動を行い、治安向上に取り組んでいる。その結果として、徐々に地域警察に対する住民の信頼が醸成されてきており、警察への相談件数も増えつつある。</p> <p>一方で、同国における治安悪化の背景には、昨今の政治的混乱に加え、深刻な雇用問題、そして都市コミュニティの慢性的な貧困の問題がある。こうした環境下で育った若者は家族やコミュニティの人々からの愛情や優しさに触れる機会を奪われ、希望や自尊心を失い、周囲の人々と信頼関係を築くことができない状況に置かれている。そのような状況の中、非行に走り、犯罪に手を染め、また麻薬に手を出すなど、貴重な人生を棒に振る若者が後を絶たない。ま</p>

	<p>た、その結果、地域の治安がさらに悪化し、経済活動は停滞、雇用状況も悪化し、貧困から抜け出せないという悪循環を生み、人々が希望を持って生活することができない環境となっている。</p> <p>こうした状況下において治安を改善するためには、取り締まる側の警察の能力強化に加え、犯罪を企てる若者とその予備軍を抱えるコミュニティへのアプローチが必要不可欠であることが、テグシガルパ市役所、同国治安省地域警察など関係者間で一致している。</p> <p>地域警察は学校への出張講座、スポーツイベントの開催などを行っているものの、コミュニティとの連携のもとに行われているレベルではなく、またその実施頻度・内容も限定されている。また、同地域において他 NGO 等によるコミュニティレベルの若者に対する活動は行われていない状況である。</p> <p>当団体は、1998年のハリケーン「ミッチ」による被災者への緊急医療支援活動以来、同国において14年に亘り母子保健、青少年育成、HIV 予防などの活動を行ってきた。首都テグシガルパにおいても、2000年より青少年育成と HIV 予防啓発のプロジェクトを実施してきておりその実績が認められ、現在は世界エイズ・結核・マラリア対策基金（世界基金）による青少年を中心としたハイリスクグループへの HIV 予防啓発・行動変容の事業を現地 NGO と連携して行っている。対象地域の一つであるフロール・デル・カンポ地区において活動を実施した経験もある。さらに、エル・パラソ県における母子保健向上のプロジェクトにおいては、コミュニティの組織化・能力強化の経験を有している。</p> <p>そこで、上述の対象地域のニーズに対して、当団体の知見・経験を活かし、青少年の育成とコミュニティの組織化、さらにそれを支える体制の構築を通じて、コミュニティの治安改善を目指す本事業の立案に至った。</p>
(3) 事業内容	<p>(ア) カウンターパート機関の能力強化</p> <p>テグシガルパ市役所コミュニティ・人間開発部および治安省地域警察部安全なコミュニティ担当課等の計約5人及び当団体によるステアリング・コミッティを形成する。同コミッティによる四半期会合を通じて事業の活動計画、進捗状況、成果・課題を共有しながら、事業を協働で進めていくことで、カウンターパート機関であるテグシガルパ市役所ならびに治安省担当官へ技術移転を行う。同会合では、市役所ならびに治安省の担当官へ対して、事業の運営管理、青少年育成、コミュニティの組織化などのテーマを取り上げ、そのノウハウを移転するワークショップや講義を実施する。</p> <p>(イ) 青少年の育成</p> <p>まず、同ステアリング・コミッティを通じて、対象地域の自治会や保健委員会、学校、教会、保健所、職業訓練校などの関係者と会合を開き、協力関係を構築する。その上で、青少年・子どもの生活環境のベースライン調査を実施する。当団体が確立してきた青少年育成ワークショップのモデルに、同調査の結果を反映させて、グループワークや工作など参加型のツールを用いたワークショップを地域の青少年に対して行う。さらに、課外活動として、スポーツ、環境衛生、コミュニティ活動などへの参加などにより共同での活動や社会・文化に触れる機会を提供する。合計約800人の青少年へワークショップを行うことを想定している。</p>

	<p>(ウ) 青少年リーダーの育成</p> <p>上記ワークショップの参加者の中から地域でのコミュニティ活動を進めていくリーダーを発掘する。まず希望者を募り、その意思を重視しつつ、対象地域がまんべんなくカバーできるよう、リーダーの候補者を決定する。候補者には、リーダー育成研修を実施し、最終的に30人程度のリーダーが育成されることを目指す。</p> <p>(エ) 青少年リーダーを中心としたコミュニティ・グループの形成</p> <p>活動(ウ)により育成された青少年リーダーと同リーダーが居住するコミュニティの自治会メンバーにより構成される「コミュニティ・グループ」を10グループ程度形成する。形成されたコミュニティ・グループは、地域警察と連携し、安全なまちづくりのための青少年育成やコミュニティ活動を行っていく組織となる。</p> <p>(別添2-1：活動内容の詳細参照)</p>
<p>(4) 持続発展性</p>	<p>本事業は、下記の通り、3年計画として実施することを予定しており、最終的に、事業終了後も同様の活動が対象地域において継続されることを目指している。</p> <p>1年次：体制構築（青少年リーダー育成、コミュニティ・グループ形成）</p> <p>2年次：活動発展・体制強化（コミュニティ・グループによる活動実施、収入創出活動、ネットワーク形成）</p> <p>3年次：体制確立・モデル化（コミュニティ・グループによる活動実施体制確立、マニュアル作成）</p> <p>本事業では、カウンターパート機関とステアリング・コミッティを形成し、協働で事業を実施し、また、事業運営面、青少年育成やコミュニティ組織化などの技術面において能力向上のための研修を行い、さらにマニュアルを作成することにより、事業終了時には同様の活動を行えるレベルの能力がカウンターパート機関に移転されることを目指している。</p> <p>また、コミュニティ内外のネットワークを形成するとともに、地元のリソースを活かした収入創出活動を事業に組み込んでいることから、各コミュニティ・グループの活動の自立発展性も確保されている。さらに、上位目標として「対象地域の治安状況が改善し、本事業の『安全なコミュニティづくり』のアプローチがモデルとして確立する」ことを目指しており、他地域においても本事業をモデルにした活動が波及することが期待できる。</p>

<p>(5) 期待される成果と成果を測る指標</p>	<p>(ア) 裨益者数</p> <p>直接裨益者：対象地域の青少年約800人（1年次）、 テグシガルパ市役所担当職員3人、治安省担当職員2人、 地域警察20人、自治会などのメンバー20人</p> <p>間接裨益者：対象地域の住民約30,000人</p> <p>(イ) 期待される成果</p> <p><u>事業目標：対象地域において安全なコミュニティづくりの体制が整う</u></p> <p>指標1：カウンターパート機関の人材5人が安全なコミュニティ活動を進める上での基礎的な知識を身につける。</p> <p>指標2：ワークショップを受講した青少年の暴力や犯罪に対する意識が高まる</p> <p>指標3：青少年リーダー30人のうち8割が継続して活動を実施できる状況にある。</p> <p>指標4：コミュニティ・グループの8割が活動を実施できる体制にある。</p> <p><u>成果1：カウンターパート機関の青少年育成、コミュニティ活動の実施に関する能力が向上する。</u></p> <p>指標1-1：ステアリング・コミッティの四半期会合がカウンターパート機関と協働で開催される。</p> <p>指標1-2：カウンターパート機関の人材5人が青少年育成、コミュニティ活動に関する研修を修了する。</p> <p><u>成果2：青少年が育成される。</u></p> <p>指標2-1：約800人の青少年がワークショップを受講する。</p> <p><u>成果3：青少年リーダーが育成される。</u></p> <p>指標3-1：ワークショップを受講した青少年の中から30人が青少年リーダー育成研修を修了する。</p> <p><u>成果4：コミュニティ・グループが形成される。</u></p> <p>指標4-1：青少年リーダーを中心としたコミュニティ・グループが10グループ程度形成される。</p> <p>指標4-2：形成されたすべてのグループで会合が開催される。</p> <p>(別添2-2 Project Design Matrix 参照)</p>
----------------------------	--